

## 胸水中の組織型推定に難渋した無色素性悪性黒色腫の一例

◎鎌田 有梨亜<sup>1)</sup>、宮崎 恵<sup>1)</sup>、羽田野 仁史<sup>1)</sup>、峯松 伊久穂<sup>1)</sup>、立川 良昭<sup>1)</sup>  
大分赤十字病院<sup>1)</sup>

【はじめに】悪性黒色腫とはメラニン色素を産生するメラノサイト由来の悪性腫瘍である。メラニン色素産生の乏しい無色素性悪性黒色腫は非常に稀な疾患であり、とくに転移性の場合には確定診断は困難になると考えられる。今回、免疫組織化学染色から無色素性悪性黒色腫が推定された症例を経験したので報告する。

【症例】84歳女性。右片側胸水を認め当院の呼吸器内科に紹介となった。当院でのCTで多発胸膜結節を認め、胸水細胞診および胸膜生検を行った。

【胸水検査所見】外観：赤褐色 血性 混濁，比重 1.030，細胞数 355/ $\mu$ L，pH 7.476，LDH 212IU/L，ヒアルロン酸 38ng/mL，CYFRA 9.10ng/mL，CEA 0.92ng/mL

【細胞所見】赤血球とリンパ球，組織球を背景に，細胞質淡く泡沫状，核腫大，多核，核偏在，クロマチン増量，核小体著明な細胞が孤在性に多数認められた。大型で異型の強い細胞や核分裂像，相互封入像，核内細胞質偽封入体が混在してみられた。

【組織所見】淡い好酸性の細胞質，核小体が目立つ円形

核を有する類円形細胞が充実性に弱い接着を示し増生していた。核分裂像，大型細胞，2核細胞も混在してみられた。メラニン色素は認めなかった。肺癌の胸膜播種や中皮腫としては非典型的で，組織型推定は困難であった。

【免疫染色】S-100，MelanA，PRAMEは陽性。HMB45は一部陽性。CAM5.2，CEA，ADCC，SqCC，D2-40，Calretinin，Desminは陰性であった。BAP1，MTAPの発現は保持されていた。よって，無色素性悪性黒色腫の転移が疑われた。

【まとめ】本例は，胸膜の肥厚と胸水貯留から臨床的に中皮腫や肺癌が疑われたが，形態的所見と免疫組織化学染色から無色素性悪性黒色腫を推定することができた。本症例のように大型細胞で異型が強く，大型核小体や核内細胞質偽封入体を持つ細胞を認めた場合に悪性黒色腫も念頭に入れる必要がある。また検体量が十分にある場合のセルブロック作製は後の染色に供することができるため，診断の補助の一助として重要である。

連絡先：097-532-6181（内線 175）